

ノートパソコンを利用した阿波踊り指導の一考察

| | |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/2297/36090 |

ノートパソコンを利用した阿波踊り指導の一考察

スポーツ科学課程 98-224 岡田知大

【緒言】

徳島県の阿波踊りは400年以上の歴史を持ち、今ではリオのカーニバルとならび称される世界的にも有名な踊りである。阿波踊りは毎年お盆の8月12日～15日の本番だけでなく、観光客向けに踊ったり県外へ踊りに行くなど、1年中様々な場所で踊られている。学校もその中のひとつである。学校体育では運動会やダンスの授業で取り扱われている。しかし、取り扱っている学校は以前より減少していることが現状である。その理由として指導できる教員がいなくなった、生徒の興味・関心がない、などがあげられている。

また、徳島には阿波踊り会館という、観光客向けの阿波踊りの施設がある。以前そこを訪れたとき、阿波踊りの指導ビデオを見る部屋を目にした。見てみるとそれは、上手い人がお手本になって踊っているのだが、内容的に難しく、初心者向けではないと感じた。

そこで、指導者がいなくても、ノートパソコンの利点である持ち運びやすさ、自分の知りたい情報を素早く得られること、文字や静止画だけでなく動画や音声も取り込むことができること、見たい動画を簡単に繰り返して見ることができること等を生かして阿波踊り指導ソフトを作成し、そのソフトを利用することにより初心者が楽しく、上手く踊れるようになるのではないかと考えた。

従って、本研究の目的は、ノートパソコンを利用した阿波踊り指導ソフトを自作し、そのソフトを利用して初心者へ阿波踊り指導を試み、阿波踊りに対する興味・関心・技術に与える影響について調べることである。

【研究方法】

1) 阿波踊り指導ソフトの開発方法

動画用の映像と静止画はデジタルビデオカメラ(SONY TRV-17K)で撮影し、メモリースティックでノートパソコン(IBM ThinkPad1400)に取り込んだ。これらをWindows98上でInternet Explorer6.0を使用して組み合わせ、ソフトを自作した。

2) 実験方法

1. 被 検 者：金沢大学の男子学生15名、女子学生1名の計16名
2. 期日・場所：金沢大学第1体育室にて、平成13年10月28日の午前と午後
に計2回実験を行った。

3. 実験手順：実験の流れは、①事前アンケートを行う、②指導計画を立てる、③阿波踊り指導を行う、④事後アンケートを行う、である。

①に関して、阿波踊りに対する知識、興味・関心についてのアンケートと、パソコンを利用することに関するアンケートの回答を求めた。

②に関して、事前アンケートの結果より、被検者の阿波踊りに対する知識、興味・関心の現状を把握し、実験群、対照群共に現状の意識水準が同様になるようにグループ分けをした。

③に関して、まず、阿波踊りの雰囲気を知ってもらうために阿波踊りのビデオを5分間見てもらった。そのあと実験群はパソコンを利用、対照群は資料と阿波踊り指導ビデオを利用して指導した。また、検者1名は両群を指導し、分からない点はアドバイスするようにした。実験群、対照群共に分からない点があればパソコン、または資料・ビデオをみてもらったり、指導者にアドバイスをもらったりし、上達の手助けになるようにした。

指導時間は各40分間とし、それぞれ練習後に練習後アンケートに回答してもらった。また、2回目の練習後に5分間の発表会を行った。発表会の様子はデジタルビデオカメラで撮影し、発表会終了後に被検者に見てもらった。そして、そのときに自分がどのように踊っているかを確認してもらうようにした。

④に関して、2回目の実験が終わった後、被検者の阿波踊りに対する興味・関心、技術が実験前と実験後でどのように変化したかを調べるために、実験群、対照群共に事後アンケートを行った。

【結果及び考察】

1) 阿波踊りに対する興味・関心について

事後アンケート「阿波踊りに興味を持ちましたか」の質問に対し、実験群、対照群共に図1から両群とも実験後に阿波踊りに興味を「持った」と回答する人数が増加した。しかし、実験群と対照群の回答を比較すると両群間に差はないと考えられる。これは、両群ともに興味を「持った」と答えた主な理由が「楽しかった」「おもしろかった」であったように被検者全員が初めて接する阿波踊りであったので、阿波踊りを踊ること自体が楽しい、おもしろいと感じ、それによって両群の阿波踊りに対する興味・関心に差が見られなかったのではないだろうか。

2) 阿波踊りの技術について

事後アンケート「阿波踊りは上達しましたか」の質問に対し、実験群、対照群の回答は図2のようになった。このことから、ほとんどの被検者が上達を感じたといえる。また、練習後アンケート「自分のイメージに近い型で踊れましたか」

の質問に対し、両群とも1回目から2回目になるにしたがって「自分のイメージに近い型で踊れた」と実感する人が増加した(図3、図4)。これは指導ソフトの動画及びビデオの映像を繰り返し見ることによって、自分の中に動きのイメージを作ることができ、技術の向上が見られたのではないかと考えられる。しかし、両群間に技術の習得の差は見られなかったと考えられる。

3) ノートパソコン及び資料・ビデオの利用、利用内容について

事後アンケート「今回、指導ソフト及び指導資料・ビデオを用いた指導を受けてみて、このような方法を用いれば自分が初心者への踊りを始められると思えたか」において対照群は「思った8名」であったのに対し実験群は「思った5名」であった(図5)。また、事後アンケート「指導ソフト及び資料・ビデオを用いた練習をまたやりたいと思いますか」において「やりたい7名」「やりたくない0名」「どちらともいえない1名」であるのに対し対照群では「やりたい5名」「やりたくない2名」「どちらともいえない1名」のように、やや否定的な傾向が見られた(図6)。このふたつの質問に対する理由の主な回答は実験群では「動画で動きのイメージを作れるから」「自分のわからない動きを繰り返し見られるから」など動画を利用することに肯定的であった。対照群では「映像で動きのイメージを作れるから」という回答の他に「巻き戻すのがめんどろだ」「同じ映像なので飽きる」のようにビデオを利用することに対して否定的であるといえる。

【結論】

1. ノートパソコンを利用した阿波踊り指導により、初心者への阿波踊りに対する興味・関心は実験前後で向上したが、資料・ビデオを利用した阿波踊り指導においても興味・関心が向上しており、実験による興味・関心の向上について差はなかった。
2. ノートパソコンを利用した指導ソフトの利用は初心者への技術向上の手助けとなる。
3. 動画の取り入れ方、理解しやすさ、操作しやすさに配慮した初心者指導のソフトを作ることができ、市販されている指導ビデオと同等の効果が得られた。

【今後の課題】

今回、被検者は全員が阿波踊りを踊ることが初めてで、興味・関心に差がでなかったため、徳島を訪れた観光客や実際に阿波踊りの指導を受けたことのある人を対象にしてみる必要がある。

